

# 地域文化学科 カリキュラムマップ(日本研究コース科目)(2019年度入学生)

地域文化学科のディプロマポリシーに加え、次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。

①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考)  
 ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲)  
 ③国内外の大学院に進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度)  
 ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
						①	②	③	④	
日本研究入門	講義	1	2	日本研究の入門者、特に留学生に向けた入門科目であり、主に日本の基本的生活文化について学ぶ。	1.日本の一年を通した伝統行事を知る。 2.行事が行われる歴史・文化的背景への知識を深める。	◎		○		
ナラロジー研究入門	講義	1	2	ナラロジーとは、グローバル化のなかの奈良研究、を意味しており、「奈良を学ぶことは、日本を学ぶこと」「異文化間交流による生成、発展のプロセスを学ぶ」という基本概念に基づき、奈良という地域の総合的研究であることを目指していることを学ぶ。	1.奈良という地域を、歴史的・現代的に幅広く学ぶ。 2.奈良の地域・文化社会がいかにか、人と人、人と自然の交流によって生成してきたかを知る 3.自身の意見を、他者の多様な見方と比較しつつ、理解を深める。	◎		○		
世界史のなかの日本	講義	1	2	留学生に向けて、旧石器時代から現代までの日本の通史を、留学生の母国の歴史と対比することで、日本の歴史の大きな流れをつかむ。	1.同時代ごとの、日本と諸外国の歴史を対比しつつ理解を深める。 2.特に20世紀以降の日本の世界における位置づけを知る。	◎		○		
世界の文化交流と日本	講義	1	2	世界における文化交流のダイナミズムと、その中で日本はどのような文化交流を行ってきたか、特筆すべき事例を概観する。	1.日本の企業文化を知る。 2.企業文化を通じた海外との交流を知る。		◎	○		
異文化体験活動1	実習	1・2・3・4	1	日本の文化に生で触れる貴重な機会として、学生が自主的に体験活動の内容を企画し、担当教員に相談の上実践する。	1.日本に在住しているからこそ体験できる活動を行う。 2.活動を企画し、報告書としてまとめる能力を養う。	○	◎			
異文化体験活動2	実習	1・2・3・4	1			○	◎			
ナラロジー演習1	演習	3	2	いわゆるゼミとよばれる少人数の演習科目で、卒業論文の作成を最終目的とする。所属する研究コース教員が担当するゼミを履修する。「生活文化」「表現文化」「社会文化」はそれぞれ複数の学問分野を含む学際的な領域を示している。	1.研究論文を読解できる。 2.文献をまとめてプレゼンできる。 3.関心のあるテーマに関して文献・フィールド調査できる。	○	○	◎	○	
ナラロジー演習2	演習	3	2		4.特定のテーマに関する議論に参加し貢献できる 5.関心のあるテーマに関して独自の意見を形成できる。	○	○	◎	○	
ナラロジー演習3	演習	4	2	フィールドワーク、アンケート調査などを駆使する主体的な学びの場であり、地域文化学の実践的教育を目的とする。「ナラロジー」は日本研究コースにのみ設置されるゼミである。		○	○	◎	○	
ナラロジー演習4	演習	4	2			○	○	◎	○	
卒業課題研究		4	2	日本研究コースのみの形式で、目的は卒業論文と同様である。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。	○	○	◎	○	
日本研究コース科目	日本生活文化概論	講義	2	2	生誕、学校教育、就職(社会人)、結婚、子育て、老後、死、という現代の日本人のライフコースを概観し、価値観や社会問題などを見る。	1.現代日本人のライフコースを知る。 2.人生のそれぞれの段階における価値観や問題について知る。	○	◎		
	日本表現文化概論	講義	2	2	日本の文学、伝統的及び現代的身体表現の文化を概観する	1.日本の文学、代表的な芸能などを歴史的に概観する。 2.日本の芸術文化に触れる。	○		◎	
	日本社会文化概論	講義	2	2	日本人のライフスタイルをキーワードに、日本の社会を学ぶ	1.ライフスタイルを通じて日本社会を知る。 2.ライフスタイルの異文化比較を通じて学ぶ。	○	◎		
	ナラロジー概論	講義	2	2	奈良という地域を歴史的および現代的な現象を、異文化交流、異文化の視点を通して学ぶ。さらに奈良地域に見られる諸問題の特定と取り組みを見る。	1.異文化交流の持つ文化創造力を知る。 2.異文化的価値基準により奈良を見なおす。 3.社会問題への取り組みを知る。		○	◎	
	日本コミュニケーション文化概論	講義	2	2	フィールドワークなどで得た知見を、マンガ表現によってまとめ上げる。消費者として読むマンガではなく、マンガの制作を体験する。	1.ノンヴァーバルコミュニケーションの可能性を知る。 2.マンガ制作を通して調査力、企画力、創造力を養う。		◎		○
	日本精神文化概論	講義	2	2	古代からの思想・宗教の影響を把握する歴史的な視点と、現代の人々の生活実践を把握する民族誌的な視点から、日本の精神文化についての基礎的な理解を得る。	1.日本の精神文化の地理的、歴史的背景の理解。 2.関連の用語の習得。		◎		○
	日本多文化共生概論	講義	2	2	ディアスポラなど、世界の多文化共生あるいは混成の実態と、日本国内の実情を比較理解する。	1.多様な文化のなかの共通項を知ろうとする。 2.日本がすでに多様な民族や価値観の交流の中にあることを自覚する。			○	◎
	日本生活文化特論	講義	3・4	2	日本人のライフコースの中で、最も長い時間を過ごすと思われる職業人生について、主に会社生活の諸相を学ぶ。	1.日本人にとって仕事とはどのような意味を持つのかを学ぶ。 2.日本の会社の職場生活の諸相を知る。		◎	○	
	日本表現文化特論	講義	3・4	2	日本最古の芸能書とされる『風姿花伝』(現代語訳)を読み、日本の身体表現の姿と精神性を見る。	1.身体表現上の、日本の伝統的な精神性を知る。 2.日本の文学表現の古典を鑑賞する。			○	◎
	日本社会文化特論	講義	3・4	2	戦後の日本経済の歴史を見る	1.日本経済の発展過程を高度経済成長期を通じて理解する。 2.高度経済成長期における日本の産業発展(Made in Japan)の特徴を理解する。 3.バブル経済崩壊後の日本経済の概要を理解する。			○	◎
ナラロジー特論	講義	3・4	2	異文化の基準、あるいは普遍的基準に基づき指定されたり発生した、奈良地域にある、「世界遺産」「日本遺産」「美しい村」などを事例にして、どのように諸基準が満たされていたり、満たされようとしているのかを文献や現地調査を通して探る。	1.奈良地域の歴史的産物か、どのように異文化あるいは普遍的価値基準により定められたのかを知る。 2.それら価値基準を満たそうとつづける、現場の営為努力の姿を知る。		◎	○		

ディプロマ・ポリシー		地域文化学科のディプロマポリシーに加え、次のような知識や能力を備えた学生に学士(地域文化)の学位を授与します。 ①日本の社会で生活し、自国や日本で就職するのに十分な日本語能力と日本文化についての豊かな知識を身につけている(技術・知識・思考) ②自国と日本の懸け橋となって活躍することができる(意欲) ③国内外の大学院に進学を目指し、日本語・日本文化の理解をさらに深めることができる(態度) ④あらゆる分野で日本語を用いて活躍することができる(行動)									
科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
								①	②	③	④
日本研究 コース科目	日本情報文化特論	講義	3・4	2	日本のマスメディア、マスコミの特性について学ぶ。	日本の新聞、雑誌、テレビニュースなどを材料にして日本のマスコミの傾向・特性について学ぶ。			◎	○	
	日本環境文化特論	講義	3・4	2	日本の環境問題への時組みとエネルギー問題に関わる原子力利用への姿勢について考察する。	1.日本の産業化にともなう環境破壊と公害対策を知る。 2.日本のエネルギー問題と特に原子力への取り組みの歴史を知る。		◎		○	
	日本経営文化特論	講義	3・4	2	ヒト・モノ・カネ・情報を日本の文化ではどのように活用してきたのか、実例を通して学ぶ	1.ソリューションの意識を高める。 2.ソリューションにいたるプロセスを学ぶ。			◎	○	
地域言語 (日本語)	入門科目 (選択)	入門日本語A(会話)	演習	1	1	日本語の音声や文章に慣れし、自己表現や相手とのコミュニケーションができるようになる。	1.ひらがな、カタカナと漢字600字程度を修得する。 2.日常生活に必要なコミュニケーションができる。 3.基礎的な文法項目を用いて短い文章を書くことができる。 4.ふりがなのついた短い文章を読むことができる。	◎	○		
		入門日本語A(文法A)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(文法B)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(作文)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(講読)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(表記)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(総合)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語A(表現)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(会話)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(文法A)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(文法B)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(作文)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(講読)	演習	1	1			◎	○		
		入門日本語B(表記)	演習	1	1			◎	○		
	入門日本語B(総合)	演習	1	1	◎	○					
	入門日本語B(表現)	演習	1	1	◎	○					
	基礎科目	基礎日本語A(会話)	演習	1・2	1	入門科目で習得した知識をさらに確かなものとし、ヒアリングや自己表現の幅を広げるとともに、読解力および作文能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を高めることができる。	1.日本語でレポートを書くことができる。 2.ふりがなのついた新聞、現代文学を読むことができる。 3.自分の意見や考えを発表することができる 4.入門に加えて新たに漢字600字程度を修得する。	◎	○	○	
		基礎日本語A(文法A)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(文法B)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(作文)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(講読)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(表記)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(総合)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語A(表現)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(会話)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(文法A)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(文法B)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(作文)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(講読)	演習	1・2	1			◎	○	○	
		基礎日本語B(表記)	演習	1・2	1			◎	○	○	
	基礎日本語B(総合)	演習	1・2	1	◎	○	○				
	基礎日本語B(表現)	演習	1・2	1	◎	○	○				
	発展科目 (選択)	発展日本語A(実践)	演習	1・2・3	1	学生は目的に応じて科目を選択し、就職や進学に必要な日本語能力と情報収集力を身につけることができる。	1.日本語で論文や研究計画、エントリーシートを書くことができる。 2.専門書や論文を書くことができる。 3.日本語能力試験N1に対応できる。 4.面接で自己アピールができる。	◎	○	○	
発展日本語A(会話)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(作文)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(講読)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語A(ビジネス)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(実践)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(会話)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(作文)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(講読)		演習	1・2・3	1	◎			○	○		
発展日本語B(ビジネス)	演習	1・2・3	1	◎	○	○					